高校 阿部野新聞

發行所
大阪市阿倍野区北畠
大阪府立
阿部野高等学校新聞部
編集兼発行人
渋谷　和一

毎度有難とう御座居ます
新刊書籍・雑誌
各種地圖・參考書
駿々堂
天王寺圖書館　大阪市心斎橋北詰

お別れを前にして

寛容・努力・活動

學校長　志賀　平

新学制の、実施、住吉阿部野両高校職員生徒の交流、阿部野校舎の転用というテンヤワンヤの騒ぎも三年前の思出嘶となって、その渦巻の只中に旧制中学から新制高校へ進学した諸君を近く新卒業生として、大学へ社会へ家庭へ送ることとなった。そこで卒業期の主として女子の生徒さんから、記念のサインブックに下手糞な字を書かされて閉口しているのだが、私は私なりに、色々な思出の糸をたぐつている。

様子を全く知らない二校へ兼務で赴任して以来三年たらずで、もとより教壇に立たない自分のこと故諸君とは内面的なつながりをもつ暇もなく、式の時など思いつくまま話をする程度で、個人々々を知らないで別れをするのは少し淋しい。それでも私にはやはり色々なことがあつたように思う。阿部野高校の将来を安定させたいと学校を外に走りまわつた慌しい記憶が走馬燈のように頭の中に浮んでくる。

諸君には気の毒だつたことが多い先ず三年間窮屈な間借り生活を余儀なくさせて、母校である阪南校舎で落着いた日を送つて貰えなかつた。次には高校完全教育の第一回卒業生として、学校の行方も、とかく手さぐり足さぐりで、カリキュラムといいホームルーム、自治会といい諸君はいわば実験台に立たされたようなもので、試みの教育を受けざるをえなかつたこともある。

併しまた諸君には時代の影響からして恵まれた点もあるにはあつた私らの若い頃とちがつて、頭の上からのしかかられて押えられる圧力から解きはなされていた。自由であつたというよりは寧ろほつておかれたという感が多かつた。その自由の中でほんとに自覚した人は、よいものを選びとつて自分のものにしてくれた筈である。とかく従属的に取扱われ勝であつた女子の立場も、学校で社会で家庭でまだ充分とはいえないまでも、見直されてきたことは争えない。

時代そのものが急角度で転廻し、変貌しようとするその道程の混乱期を高等学校生活で送つたことはそれがプラスであり又マイナスであつたにせよ、鍛えられもまれた体験そのものは永く諸君の人生を色どけるであろう。何の変化もない、平々凡々の時期に青年時代をすでした私らとは違つた何かを諸君はえられたに違いない。

敗戦直後の頃、私らは日本の将来に絶望的な目を向けがちであつたが、今は事態が変つてきた。今はどちらかといえば昔の日本に求められなかつたことまで、可能性の範囲内のこととして望みうるように考えられる。捉えられない自由な視野から、かくもありたい未来の日本を描くことも許されそうである。

その意味から、学窓を出ていかれる諸君の未来のゆたかさ明るさを心の中から祝福したいのである。もとより諸君の前にはまだ色々な困難の横たわつていることは覚悟していただかねばならないが、それは賢明さと努力とで克服できる程度のものであり、致命的な悪条件ではないように思われる。

昔は何事によらず、シリアスであることばかり要求された。真面目努力奮闘などが一番にあげられたシリアスを悪いとはいわないが、シリアスであると共にもつとユーモラスであることが大切ではなかろうか。シリアスであること丈を尚顧していると糞真面目、利己主義、排他主義、変屈になつて、心狭く付合いにくい人間になる。ユーモラスでいつもニコニコと元気で、人に好かれ、自分も愉快で生き方がもつと高く評価されていいのじやないかと思う。これは私自身も心がけていることで、これから世の中へでていかれる諸君にもおすすめしたいのである。

母校の名誉双肩に

初の共學卒業生　きよう巣立つ三百名

説論

卒業式に寄せて

三年間の年月は夢の如く過ぎて今日ここに共学初の卒業生として本校第三回卒業生三百余名を送り出すことになる。今回の卒業生はこの三年間、義務教育優先という校舎転用のために同居生活の悪環境の下に、高校としては極めて不完全なる施設の中で、しかも名実共に本校の興廃を左右する重大任務を双肩に負わされた、いわば実験台ともいうべき、緊迫感のまま三ケ年の高校教育を履修したのである。

顧ればその間、自治会にクラブ伝統なき、先輩なき弱点をカバとよく他校に引けを取ることなく今日まで前進せしめて来るための基礎を築いた中堅として、その活躍と功績は実に大きい。各運動部にあつても天下に阿部野の名を轟かした原動力は称讃されるべきである。

また一方現今に目を見張るならば、彼等卒業生の一挙一動が社会の目に与える影響の大なることはいうまでもない。過去に於ける、旧女学校であるという社会的ハンディキャップは現在今なお社会の脳裏に残つていることは否めない事実であり、しかもかかる旧観念の残滓が与える影響の少くないこと盡さるべきである。

一方二年以下七百名の在校生にとは関係者全般が認め得る事実であるが故に今回の男子第一回卒業者を含む卒業生の上級学校入学率就職状況等が本校の真価を世に訴え得る唯一の積極的方法となることはいうまでもない。かく考えれば今回卒業生の責任は正に重大である。最も手近な例を取るとすれば目前に迫る、本年度一年生志願の問題が、本校が府下最高激戦地であると予想される市内第六区に属するが故に、その結果の如何が、極めて重要な分起点となるであろうことが予想される。要するに卒業者の今後の行動一切が母校阿部野の運命に係るということの自覚を失わない行動が必要であり、自己の本来の目的にベストを尽さるべきである。

本校第三回卒業式はきよう二月二十四日午前九時よりなつかしの旧校舎講堂に於て挙行される。この日晴れの本校第三回の卒業生として、高等学校教育三ケ年終了を許可されるものは、本校発足以来初の男女共学学年計三〇三名である。同卒業生は新制教育の試金石ともなる先駆者として、三年間本校の中心として活躍したが、社会人注視の中にきようなつかしの母校を去る。本校に於ても、彼等三百余名にかける期待は大きく、或いは大学入試に或いは社会に於ける今後の活躍は、本校に対する社会の目を左右するといつても過言でなく、本校の興廃を托すともいうべき運命を双肩に重大なる意義をもつている。

卒業生の男女別では男子一八九名、女子一一四名であり、内分けは上級学校志望者数一九二名（男子一七八名、女子一四名）で全体の六三・一％、就職者数は八四名で二八％、家事につく者は二七名で八・九％である。右の就職者八四名中二七名は既に就職先が決定して居り、家事に就く者二七名中洋裁学校等へ入学する者は六名となつている。

目前には学期末考査を控えて大童であるが、一方自治会活動に目を転ずれば、過去一月より三回連続の議会流会等余りにも想意の低調さは言語に絶する。現今の状態がこのまま持続すればおそらく来る四月新一年生を迎えその総選挙は相当の困難を見るに違いない。これらをせんじつめて考えるならば結局入学以来一ケ年を経た現一年の活動が不足なのではないだろうか、勿論校舎問題による上下のつながりが不充分とはいえあまりにも遠慮しすぎているとしか考えられない。本年度などの経験より推しても来年度自治会活動が来るべき受験を控えた新三年が中心となり、先輩への心からの餞けとなることは多分不可能と予想されるに違いない。

時、一年生の今一層の奮起を促したい。

かくして現一、二年が団結してこそ来るべき新入生の受入れ態勢が築かれるのであつて、卒業生が今日まで築き上げて呉れた土台を中心として今後の発展が期待出来るであろう。しかしながら卒業生は大事な時にあの予餞会のビックリ玉事件によつてみそをつけたと思われる。かかることは二度とあつてはならないのだ。そのためには、今後に係かる自己の責任を再認識して在校生一人一人が自覚あを態度で本分に精励してこそ、先輩諸兄姉の真の愛校心を継ぐものとして去り行くものが安心して母校の校門を出て行き得る結果となり、先輩への心からの餞けとなるに違いない。

一千人の大合唱

校歌發表會盛大に擧行

本紙第十九号既報の如く待望の校歌は、安西冬衛氏の作詩、大沢寿人氏の作曲によつて決定したが、同校歌発表会は予定の如く、去る二月一日午後一時半より本校講堂に於いて作詩者安西氏臨席のもとに全校教員生徒が出席して盛大に挙行、一千余人による校歌の大合唱は全校をゆるがし本校の前途を祝福するが如く校下にこだました。

校歌発表会は渋谷文化部長の開会の辞に始り、校長の挨拶に引きつゞいて本校音楽部コーラス斉唱による校歌発表があり、安西冬衛氏は校歌作詩並びに伊東先生との関係等を中心に講演された。つゞいてハーモニカ・クラブによる校歌合奏、スウィング・クラブを主体とする有志による室内楽合奏、音楽クラブコーラスの四重唱が発表され、最後に全教員、生徒が校歌を合唱、本校の歴史に新たなるページを力強く記録して発表会を終了、閉会宣言と同時に湧き起る万雷の拍手に送られながら安西氏は退場された。

きよう〝聖火〟發行

自治会文化誌〝聖火〟第二号はきよう二月二十四日発行予定。

校長先生一級昇進

府教委では、府下高校長中より特に功績のあつた校長に対し、一級昇進を授与することを決定し、その該当者として、北野高大手前高、夕陽丘高兼天王寺高市岡高、阿部野高兼住吉高の五校を選出した。志賀本校校長先生は、従来の高校教育に尽力されその功が今度の一級昇進となつたもので今後一層本校の向上に尽力して蔵き度いものである。尚右の一級昇進、今回が初めてで、本校生徒は共にこれを誇りとすべきである。

道徳教育四月から實施

社會科に倫理四項目加う

去る二月八日文部省発表によれば昨年天野文相の声明以来、世論の的となつていた道徳教育の必要性が、教育規定審諸会の答申にもとづきつぎの方策が決定、四月の新学期より実施することになつた。

方策案の骨子は修身復活のような特設科を設けず全教科の中で道徳教育を行う。特に社会科の目標に倫理的指導項目を入れた。その具体策は

【道徳教育のための手引書を作る】幼稚園、小、中学校、高校の各段階に応じて道徳教育をどのように展開すべきか。その方法を具体的に示し指導の手がかりとする目的から作成委員会を設けて早急に大綱を定め各学校に配布する。

【改訂中の学習指導要領で解明する】学習指導要領の一般篇で、道徳教育の重要性とあり方について各教師に理解できるように説明し各教科の中では人間関係を主とした社会科の中に①豊かな重厚な人間を育てる②統一ある生活態度を形成する③創造的な問題解決の力を備えた人間を育てる④清新で明るい生活を営むことの出来る力をつくる等未だかつていなかつた倫理的目標をつくる項目を入れた。

松田君　府教委善行賞
西野さん　府教委体育賞

きよう晴れの第三回卒業式に本校で大阪府教育委員会より表彰されるの（松田尚士君と、西野千鶴子さんである。

松田尚士君は自治会その他の功績により大阪府教育委員会善行賞を授与される。

また全国高校ソフトボール界の名投手として活躍したソフトボール部西野千鶴子さんは大阪府教育委員会体育功労賞を授与される。

自治会クラブ功績者42名

慣例の卒業生の自治会並びにクラブ功労者の表彰は今日晴れの卒業式に行われるが、この功労者選出には学年末を前に熟行委員会では種々、方面より資料を集計協議の結果、去る二月七日の熟行委員会に於いて、本校自治会発展に貢献した四会長以下自治会功労者十五名、また全国的選手として活躍した西野、二井選手などクラブ功労者二十七名を決定した。

自治會功勞者
（括弧内は在任当時役員名）

西野千鶴子（23年前期副会長）
河村　齋司（23年前期書　記）
大西　璋（23年前期会　計）
浅井　博次（23年後期会長・24年前期二年代表）
植田　擧一（24年前期会長・23年前期二年代表）
永沼　芳和（24年前期会計・23年後期一年代表）
大竹　幹夫（24年後期副会長）
松田　尚士（25年前期会長・24年後期二年代表）
茨木　耕作（25年前期副会長）
玉井　明（25年前期書　記）
浜田博夫（25年前期三年代表）
西川　和子（24年後期二年代表・25年前期三年代表）
北原　淳行（25年後期会　長）
上野　亮子（25年後期副会長）
上村久子（25年後期三年代表）

クラブ功勞者
（括弧内はクラブ名）

京崎孝（新聞）大西璋（生物）田中杉雄（ESS）神保昌子（茶道）河村齋司（図書）羽方幟（書道）西村禎一（写真）岡部英明（歴研）松田尚士（演劇）桐本朝生（華道）天堀俊夫（映鑑）竹谷澄子（絵画）岸本喜久彦（音楽）池広龍生（英文学）植田擧一（文芸）藤原（科学）二井三夫（卓球）西野千鶴子（ソフト）鳴木三郎（排球）谷口晴久（籠球）奥貞純（硬庭）永沼芳和（硬野）西松史郎（体操）国本喜弘（水泳）堀憲二（送球）福田修三（蹴球）大竹幹夫（陸上）

鉛筆

▼立つ鳥はあとを濁さず？▼在校生心から？の予餞会がカンシャク玉飛びちがう恐怖の殿堂と化した▼本校の興廃はまさに彼等卒業生の言動如何にかかると耳がたこになるほど聞かされたのは無益に終つたのではなかろうか▼会場の混乱に対処すべき風紀部は口一つきかず▼生活指導主任の注意は騒乱にかき消されて焼石に水ノ▼並いた教員一同アキレテモノガイエと講堂を退散▼風紀刷新は再三叫ばれながら遂に関係方面の消極的態度はかくの如き悲惨な事態を引き起した▼生徒の自覚を待つという消極的態度をそのものを反省しなければならない▼この学年末に於て教務当局は断乎たる態度で臨むという、当然の事である▼校紀をみだし利己主義をもつて高慢チキに鼻を高くしている無軌道分子の放校処分こそ刷新の期となるのだ▼三年生進学適正検査の成績は府下でも下位より数える方が早いとのことだ▼これを見ても二年生以下の今後の苦しい道は想起出来る▼転じて議会を見よ、連絡不行屈か熱意低調か、三回連続流会という。遂に後期自治会は始つて以来の不名誉を受けてしまつた▼議員よ奮起せよノさもなければ自治会は崩潰する。

證書受賞代表は西野さん

きよう晴れの卒業式に於ける卒業證書受賞者代表、卒業生答辞並びに在校生代表祝辞は去る二月十五日の教員会議により次の如く決定した。

卒業證書受賞代表　西野千鶴子
卒業生答辞　浅井　博次
在校生祝辞　渋谷　和一

四月組生募集
伊藤茂平創設　目下受付中
本科・高等科・夜間部・日曜科・速成科
伊藤衣服研究所
大阪教室　南區順慶町一ノ五　電話(26)一四九六
神戸教室　尼崎市太字園和八ノ三五　阪急神戸線園田駅下車

能樂部・部員募集
★謡曲　★仕舞　★鑑賞
師　山本博之・小川旦先生
稽古　週一回
特に一年生を望む　二の一　上田まで

高校生の參考書ならなんでも揃う
品切の書籍はさつそく取よせます
サカグチ書店
上町線北畠駅前

樂器、蓄音器、レコードの御用命は
響榮樂器
阿倍野筋七ノ六八
上町線東天下茶屋東ノ辻角
電話天下茶屋(66)2462

関西庭球用品株式會社
本社　大阪市北区天満橋二丁目三五　電話堀川(35)5080
販売所　大阪市北区金屋町二丁目一三　電話堀川(35)5081

第二十號　高校阿部野新聞　昭和二十六年二月二十四日

本校も発足してここに三年、種々なる困難を克服しながらも、着々と高校阿部野の伝統基盤は築かれて来たが、きよう二月二十四日には初の共学卒業生を送り出すことになつたが、その間の自治会活動もまた他校を凌ぐものがあり、「生徒心得」制定、「聖火」発行、各年度記念祭等々他校にその例を見ないが、その陰には役員諸兄姉の一方ならぬ努力があつた。

今回はその中軸として活躍された人々を多く送り出すわけだが、その三年間の自治会活動の回顧と思い出を〝アデユー阿部野四会長座談会〟と銘打つて自治会振興の大立者である第二代会長浅井博次君、第三代会長植田馨一君、第五代会長松田尚士君、第六代会長北原淳行君にお集り願つて色々と語つてもらつた。

自治会三年を顧みて

アデユー阿部野・四会長座談会

當選、途端に窮屈だヨ

すごかつた第一回立候補數

司会　自治会も満三歳になりましたがその間の思い出を放談的にどうぞ

浅井　この四人の中で僕が一番始めに上級生をおいて会長になり自分では一生懸命したつもりだが人から見るとへまな事もあつたと思う。しかし議会で先生のライターの火を頼りにして審議を続けた事が一番印象に残つています。

司会　あの頃は今と違つてやり易かつた様に思いますね。

浅井　そうですね、議会が顧問の云いなりだつたと非難を受けたが、自分は議長として学校の云いなりというつもりはなく人から非難を受ける事はないと後悔はしていない。

植田　僕は二年生の前期に会長になつたが前の会長の浅井君が同じ執行委員に入つていたので大分助かつた。今から見ると悪い意味ではなく議員は大人しかつた。やじる等のつぶし的存在がなかつたからやり易かつた。僕が一番困つたのは下駄履禁止の問題です、あれには本当に困りましたよ。

松田　僕の時に丁度対立問題が起り、非常に困つた。学校も生徒も又、新聞も書きたててくれ、自治会に対する関心は高まつたが……

北原　三年生として最後に会長になつたが執行委員になつた事がなく面くらつた。

聖火發行を傳統に

傳えよ校章の意義を

司会　自治会も始めからでは随分変つて来ましたね。

一原さんの時は教員問題で自治会と生徒の一部と学校の方針が違つていて夕刊新聞にも書かれましたが、あの時の毎日会館での文化祭の思い出をお話下さい

松田　あの時は渋谷君も僕も執行委員だつたね。

一部の生徒の中に先生の首切を止めろという運動もあり又、校外からのビラもまかれたりして役員の立場はつらかつた。

北原　こちらでは随分苦労して作つたのがプログラムで辯論部ともめましたね。

松田　あれは話し合ひで決まつたね。

司会　ではずつとさかのぼつて自治会創立当時の事を。

植田　自治会が出来る迄は自治会準備委員会で、その時は共学してまもなくだつたのに割合スムースに行つた。既成の自治会を見に行つたりしてそれから初代の自治会が出来た。あの時は学年代表だつたが最初の方が議員出席率はよかつた。又立候補者も多く書記が十名に一人、会計が六名に一人と競争率もすごかつたのだが……

司会　立候補して当選した時の気持は？

浅井　僕の時は人がなくて困つた時で議会推薦で立候補したからたいした競争もなかつたし自分でも当選すると思つていたからか別にどうという事はないが（笑声）

植田　僕は立候補締切の三十分前にさせられた。意志が全然なかつたから勿論ビラも張つてないし危いと思つていたのだが、当選したらとたんに窮屈になつたよ。

浅井　そうですね、絶えず周囲の人から監視されている様です。

植田　あの頃の演説はゼスチユアが入つたり愉快でしたね、互にくさし合う事はなかつたよ。

司会　初めて生徒心得が出来たのが浅井さんの時で冬期生徒心得でしたがその時の事をお話し願います。

浅井　生徒心得を作る事が決つて準備委員会が出来、風紀に関する安永先生をはじめ多くの人々によつて原案が出来てそれを審議したのです。

植田　審議の時は内容の事よりも文章論的な事に女の人からたくさん意見が出た。

浅井　禁止するという言葉を止めて好ましいとしたからね。

北原　その後植田君の時に現在の生徒心得が出来、一原さんの時に会則を修正し一年生に渡す為にと生徒必携も出来たのでしたね。

出席者（敬称略）

昭和二十三年度後期会長　浅井博次
昭和二十四年度前期会長　植田馨一
昭和二十五年度前期会長　松田尚士
昭和二十五年度後期会長　北原淳行
司会　新聞部

會員の協力が先決

細部にかゝわらず大道を

司会　聖火について

植田　聖火が発行されたという事は当時の人達が自治会に関心があつたのだと感心するのだが。

松田　あの雑誌はとても立派なものだと喜んでいる。予算がある限り是非とも続けたい。

北原　今年もまもなく良いのが出来るだろうと楽しみにしています。

植田　毎年たとえ一回でも発行していつまでも伝統として残したい。僕等が卒業した後も懐しく思つて見られる様に是非続けて発行して下さい。今後の方にもお願いします。

司会　運動部に関してどうぞ。

北原　運動会の時にソフトボール部が福岡国体へ行つたのが一番印象に残つています。

植田　共学当時からソフトボール部は名をあげていましたね。

北原　それから体操の上野さん達ね、阿部野と云えば体操とソフトと云つた位ですから、

浅井　最近は卓球が活躍していますね、最近はどんどん各クラブ揚場があつてとてもよかつた。又、化祭で君が代を歌つたのもいい。生徒のみでしたのに非常に良いのが出来た。

司会　前期自治会の山ともいうべき予算の事についてどうぞ。

植田　予算が決定する迄は前期自治会がスタートしてから一ケ月は掛りました。運動部対文化部に分けるのが一苦労でした。あれからは大分クラブ数も増してもつと困つたと思う。会計の永沼君を自分のクラブの予算決定の時は外へ出し残りの者で決めたり不公平にならない様にと苦心してやりました。

松田　僕の時は予算がクラブからの申請の三分の一しかなかつたので色々ともめてとうとう自治会費を四十円に値上げしたが期間は植田君の時より長かつた。

司会　後期自治会では記念祭ですがそれについて。

浅井　共学初の記念祭だつたが上級生の女子の方がよくして下さつた。

北原　僕は昨年度と今年度と二回関係した。昨年度は校外で行つたが結果的に見れば皆はどう思われているか知れないが僕は成功だつたと思う。又今年度は本校でしたが外でも内でも努力次第で出来るのだと思う。

松田　今年の運動会は行進や国旗共向上していますね。

司会　前々から望んでいた校歌が出来たのについて。

松田　歌の良し悪しよりも講堂で皆が一諸になつて歌つた事が非常に嬉しい。校歌も国歌も大いにいたい。そして校歌を皆がさむ様になればいいと思う

北原　卒業する者として非常に嬉しい。

司会　共学して校章が変更しましたがこの校章問題について。

浅井　先生や議員や一般生徒から募集したんです。

植田　応募された中には前の阿部野高女の型に手を加えたものが大部分だつた。それを議会で審議したんですが結局専門家にまかされてそれが又審議されたんです。

松田　校章の周囲が聖火でるる事がファイヤーストームや聖火に髣髴してるんですね。

植田　一年生には校章の意義がわかつてない人が多い様です。話されなかつたから無理もないかも知れないが。

松田　中が北畠公の紋である事も又周囲が聖火である事もね。

司会　個人として嬉しかつた事はどんな事でしよう。

植田　公的なものとしては聖火の発行ですね。

浅井　嬉しかつた事と云はれると一寸困ります。でも努力して成つた事は何でも嬉しい。

司会　自治会は議会制度でなく委員会制度というのが他校でも現れて来ている様ですが皆さんが今後に望まれる事は、

北原　今は分校があつて離れているかも知れないが自治会発展には会員の協力という事を痛感します。

浅井　笛吹けど踊らず却つてつぶすんですからね（笑声）

植田　細い事で時間を取らす大きな問題を討議してほしい。

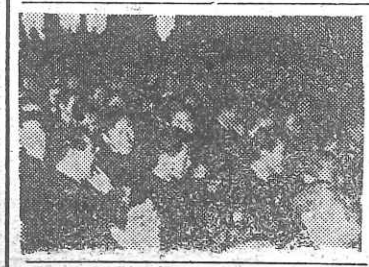
松田　僕の時はそういう事がよくあつたが今後は校歌をそして北畠公の校章を先頭にして目標に進んで行つて下さい。

植田　結局議員に破壊的分子を選挙しない事になるかなあ。

司会　会員の協力、聖火等の色々の伝統を保つという事が云われていますが皆さんも共学初の卒業生として大学や社会へと行かれるに当り本校の名誉を更にその新しい世界でも発揚して頂けるよう、又今後も後輩を何卒御指導下さる様お願します。

乱れ飛ぶビツクリ玉

恐怖に包まれた豫餞會



恒例の卒業生を送る予餞会は去る二月九日午前九時半より開催され開会式に引きつづいて各文化クラブ出演の余興に、在校生の卒業生に送るはなむけとして半日を一堂に会して過したが、なつかしい思い出の一つとして楽しかるべき予餞会が三年一部男子による不心得な行為のために、不愉快な印象を与え、一時まさに講堂全体が恐怖の殿堂と化したくらいで、各方面では非難の声が湧き起つている。

予餞会は河口準備委員長の開会の辞、校長挨拶、校歌斉唱、記念品贈呈があつて開会式を終り、つづいて、音楽、ハーモニカ、文化科学スウイング等各クラブ出演による余興に入つたが、演技に入り緊張した空気が破れるや、会場のあちこちに、ビツクリ玉が爆発し並みいる教員をしり目に女生徒達による所謂投げ玉を壁、天井に打ちつける方法と、マツチ式の火薬を点火してはあちらこちらと投げたもので、このために会場内は一時に騒音と火薬のにおいにつつまれて恐怖の殿堂と化し、中には舞台或いは教員に対して投げつけるものもいた。

これに対して関係当局である自治会風紀部は一切活動せずまた、生活指導主任の注意も全然無視された形であつて同会終了後、竹内自治会顧問より同問題に対して非常なる叱責があつたがこの時始めて会場は緊張味を取りもどした感があつた。その後同問題に対しての処置は具体的になされていないが下級生一部には上級生にかかる幼稚な楽しみしか知らぬ人々を持つた事への失望とその放従な態度に対し即座に何ものもなさぬ学校並びに自治会の消極的態度に不満の声を投げている。

（寫眞説明）
上・観覧する卒業生
下・スウイングの演奏

阿部高詩壇

紙芝居

湯村澄子

何か口々にわめき乍ら
走つて行く
喧嘩をしていた子も
ままに事をしていた女の子も
お母さんに
　駄々をこねていた坊やも
みんな
紙芝居に吸い込まれる様に
集つて行く。
暫あたりは静かになつて
一段と高い辯士の声
ひと所の絵に見入る顔、顔
何かを求める真剣な眼
美しい生命、伸びようとする
若葉だ。
このまま真直ぐ
成長するまで暖い空気の中に
守つてやりたい。
よけいな枝に傷つけられたり
邪魔をしたり
嵐に会つて
　へこたれる事のないように。
子供達を引つぱつて行く
紙芝居
柔らかな童の心
芽ぐむ若葉に
美しい夢を与えておくれ。

女子卓球第二位

体操　田中君好調

大阪府新チーム卓球大会は、去る一月二十八日清水谷高校に於て挙行された。当日は本校卓球部からも出場したが女子の部のみ優勝戦に至つて惜しくも破れた。尚当日の戦績は左の通りである。

（一二回戦）
本校　3―2　市岡（二回戦）
本校　3―2　鷺洲（三回戦）
本校　3―1　宣真（準優勝戦）
本校　3―1　東大谷（優勝戦）
本校　1―3　扇町

去る二月十日大阪府冬期高校体操大会は、大阪府教育委員会、及び大阪府体育連盟の共催に依つて行われたが、本校体操部もこれに出場し、ホープ田中君はマツト及び跳箱にそれぞれ二位を占めた。尚この大会に山浦（男子）松本（女子）越知（女子）の三君も出場したが惜敗した。

田中君成績
機械体操（マツト・跳箱）
規定　一六・一
自由　一六・〇
徒手体操
規定　一六・四

（聲）

投稿歓迎・学年組氏名明記のこと・紙上匿名も可

校歌に寄す！

自分達はこの学校に入つてから校歌の無い事をどれ程淋しく思つたろうか、又どれ程早く出来上る事を待つていたであろうか。そして常に町を濶歩しつつ口ずさむ校歌を夢見て来たが漸く現在にいたつて校歌が出来上つた。しかし喜びつつ歌詩を読み、曲を聞いているうちに「少しガツカリ」と言つた感じを消すわけにはいかなかつた何故だろうか、それには二つの理由がある。一つは詩を読んで感じたのであるが、余りにも完成されたこの詩には自分達のあふれるばかりの青春の意気があらわれ出ていない。悲しい哉。阿部野高校ここにありと四方に呼びかけるだけの力がない。それだけではない。阿部野高校と言う文字をかくしたならば、後は住吉高校又は阿部野の中小学校の名をあてはめて見た所で、それはそれなりに意味が通じ、少しも矛盾しない。真に阿部高の校歌なれば、他の学校名をあてはめたならどこかにちぐはぐが生じるはずである。だのにどこにでもあてはまるというのは一体どう解釈すればよいのだろうか。又もう一つは、身勝手な理由かも知れぬが、あまりにも優雅過ぎて道を濶歩しつつ口ずさむにはふさわしくない事である。詩が詩故に曲もかくなつたとは思われるが、これじやと思う。これは確かに式の時等には持つて来いの歌だ、だがファイアーストームの時等には不向にも大不向だ。とにかく私には常に口ずさみそしてなじむ事の出来ない校歌である。残念な事である。

小林

スポーツ

籠球新人男子の部　於　高津高校
市岡高　23（9―12、14―8）29　本校

籠球新人女子の部　於　今宮高校
春日高　53（28―12、25―2）14　本校

期末考査二日より

三月行事豫定

三月一日（木）期末考査開始
二日（金）期末考査
三日（土）休日
四日（日）休日
五日（月）期末考査
　入学願書受付開始
六日（火）期末考査終了
十三日（火）入試準備
十四日（水）終業式　午前九時
十七日（土）新入生入学試験
二〇日（火）有合格者発表
二一日（水）合格者点呼
二三日（金）右組分け

部告　本紙も全国新聞協会に呼応して新活字を本号より採用致します。本号は大型版発行予定でしたが学校予算の関係上やむなくタブロイド版に致しました。尚連載〝広島陸軍病院〟は筆者の都合上掲載中止致しました。